

# 「地球市民の時代は来るのか？」 出合いを大切に

サラヤ株式会社  
代表取締役社長

更 家 悠 介

## (1) 人類のフロンティアを広げた地球的視座

1969年、私は高校3年生だった。その年の7月20日に、アメリカの宇宙船アポロ11号は月周軌道に到達し、月着陸船「イーグル」が月面着陸、アームストロング船長とオルドリン船員が人類で初めて月面に降り立った。この快挙は、世界の人々の熱狂をもって受け入れられた。その時採取された「月の石」は、翌年開催された大阪万博のアメリカ館に展示され、それを見ようと4時間～5時間待ちの長蛇の列ができた。アポロ11号は、人類に初めて月面の光景をもたらせたが、あわせて宇宙空間から見た地球全体の姿をも見せた。人類が、宇宙から始めてみた地球の姿は、暗黒の空間に浮かぶ青い水の惑星で、まさに神々しい姿だった。

1971年、私は大学2年生。ローマクラブが「成長の限界」を発表し、資源枯渇の問題を指摘し、地球的視野からの成長の限界を訴えた。折しもオイルショックが世界を席卷し、一般の消費者にも問題意識が波及した。その後日本は、軽薄短小・省エネの技術を磨き、経済危機を乗り越えたが、そこで創造された富が不動産バブルに向かい、それがはじけて、文明的に何も残らなかったことは、たいへん残念である。

その後も宇宙から地球を俯瞰した写真が数多く紹介されているが、そのすべての写真からは、我々が教育や報道を通じて日ごろから刷り込まれている、「国境や人種、偏見や差別」など、人々を隔てるものは何も感じられない。むしろすべての生き物は宇宙船地球号に乗っている仲間であり、運命共同体のメンバーであることを示唆している。イギリスの科学者ジェームズ・ラブロックは、「ガイヤ生命論」を書き、地球自体が積極的に恒常状態を作り出し、無生物ならびに生物と共生状態をつくっている、まさに生命体そのものであると喝破している。この地球的価値をわれわれは守り、育てなければならない。

## (2) 地球人宣言と地球市民の時代

1985年は、ゲーツ元年とよばれ、ビルゲーツがコンピューターソフト・ウィンドーズを発表した年である。その年は国連の世界青年年でもあったが、私は日本青年会議所の国際室長として、広島で開催された全国大会で「世界青年サミット」の開催・運営を担当した。世界80カ国の、様々なジャンルの青年にあつまっていたいただき、平和や経済の議論をしたが、その会議で発表したのが「地球人宣言」である。「地球人」という言葉は、その時の造語で、誰に聞いても「へえー」といって驚いて、あとが続かなかったが、経済体制や差別、偏見を乗り越えて、地球的価値を守り育てる主体的な人間になろうという意味である。

その後1991年に、国際青年会議所の常任副会頭となったが、その年の7月に国連の総会場や会議場を借り受け、世界108カ国の青年に集っていただき、「模擬国連・Model UN」を開催した。その時のテーマは、地球人から進化した、「地球市民の時代」である。われわれひとりひとりが「地球市民」として、積極的に、経済や環境、そして子供の未来に関与しようという発露の言葉である。おりしもその後の時代の急速なインターネットやパソコン、スマホの発達は、地球的な枠組みで、人々の時間や距離を大きく縮めてきた。

## (3) サラヤビジネスと地球市民の時代

このような背景から、サラヤ株式会社でも、「地球市民の時代」を企業において、実際に活用しようと努力を続けている。当社は、スモール・バット・グローバルな会社を目指して活動を続けており、現在15カ国に販売会社、5カ国に製造拠点を運用している。地球環境問題や資源の枯渇はこれからのビジネスに大きく影響を与える要素であり、これら諸問題や、地球的価値に対して、具体的にグローバルにしっかりとした考えや対応が必要であると考えている。

その一つプロジェクトに、ボルネオにおける熱帯雨林の回復と野生生物の保護プロジェクトがある。当社の主要原料は、パーム油だが、近年パーム農園の破壊的拡大により、熱帯雨林が大きく減少し、象やオランウータンなど、その地域の生物種の減少が懸念されるようになった。2006年だが、ボルネオ島サバ州に、ボルネオ保全トラストの設立に協力した。そして消費者や日本のNPOと共に、緑の回廊計画の推進や野生生物の保護活動を推進している。

またアフリカ・ウガンダにおいては、100万人の手

洗いプロジェクトを進めており、手洗いやヘルスケアにおける手指の消毒を通じて、乳幼児や妊産婦の感染症を予防し、子供の健康を守りたいと思っている。

#### (4) 国連開発計画・SDGs とビジネスについて

国連では本年新たな開発計画を策定し、2015年9月に各国首脳たちが参加する国連総会で採択された。サラヤは、このSDGsをガイドラインにして、今後も企業活動を展開する予定である。サラヤも企業・地球市民として、頑張っその存在意義を探したいと思っている。

以上

---

(醗酵 昭和49年卒)